

目次

序文

第一章 本部事務局

第一節 旧制度下における名古屋大学事務機構……………三

目次

一 名古屋帝国大学事務機構の形成……………三

二 戦争の激化と事務局……………七

三 終戦と事務局機構の改変……………八

四 学園復興の始動……………一一

第二節 新制大学の発足と本部事務局……………三

一 新学制の成立……………三

二 本部事務局の組織と機構……………五

三 本部経費……………七

三	豊田講堂使用方法の検討	三
四	事務局の主な人事異動	三
五	宿日直勤務の廃止	三
六	学内環境の改善	三
七	国際交流の開始	六

第六節 現在の名古屋大学と事務局

一	全学の管理運営と事務局組織の変化	三
二	学内の安全対策と総合交通計画	六
三	教育・研究施設の新設・改組および研究諸条件の整備	七
四	記念事業	八
五	行政改革と大学業務の合理化・効率化	八
六	その他	九

第二章 学生部

第一節	学生部の沿革	五
-----	--------	---

第二節 組織・施設	101
一 組織および機構	101
二 各種施設の設置・廃止等	102
第三節 学生の課外活動	111
一 体育会	111
二 文化サークル連盟	113
三 主な行事	115
第四節 歴代学生部長	117
第五節 国際交流	117
一 外国人留学生の受け入れ	117
二 海外派遣留学	118
三 大学間協定	119

第三章 文学部

第一節 草 創……………二七

- 一 文学部の創設……………二七
- 二 外国人教師問題と新制への切り替え……………二四
- 三 主な出来事とスタッフの充足……………二四

第二節 独自の体制の確立……………二〇

- 目 次
- 一 自由・自治への情熱と新制大学院の創設……………二〇
 - 二 学部長選挙拡大・単位制度改革・助手任期撤廃……………二〇
 - 三 教授会と教官会議……………二五
 - 四 主な出来事とスタッフの充足……………二五

第三節 東山移転と学部拡充への摸索……………一五

- 一 東山移転……………一五
- 二 講座増への努力と第四学科構想……………一六
- 三 主な出来事とスタッフの充足……………一六

第四節 美学問題と新教授会の発足	一七〇
一 問題の所在	一七〇
二 争いの顕在化と教授会・教官会議の対応	一七一
三 学園紛争の激化	一七四
四 教官組織の一本化	一七五
五 美学問題の総括	一七六
六 主な出来事とスタッフの充足	一八四
第五節 哲学問題	一八七
一 哲学研究室をめぐる問題	一八七
二 学部内の体制整備	一八九
三 主な出来事とスタッフの充足	一九〇
第六節 三十周年前後	一九三
一 学部長選挙内規の再改定	一九三
二 記念行事と増築	一九五
三 主な出来事とスタッフの充足	一九六

第七節 壮年期を迎えた研究・教育	二〇〇
一 転換の兆し	二〇〇
二 大学院兼担講座要求の決定	二〇〇
三 四年一貫教育構想への取組みと問題点	二〇一
四 学科改変の構想	二〇三
五 研究組織の拡大	二〇四
六 入学試験「総合問題」の実施	二〇五
七 外国人留学生の増加	二〇五
八 主な出来事とスタッフの充足	二〇七
第八節 現状と課題	二〇九
一 研究とその体制	二〇九
二 教育問題への取組み	二一一
三 学部の運営と将来の展望	二一七
四 主な出来事とスタッフの充足	二三〇

第四章 教育学部

第一節 名城時代・前期……………三三

一 教育学部の創設……………三三

二 草創期の教育学部……………三三

第二節 名城時代・後期……………三四

一 学部組織の整備・拡充……………三四

二 教育研究体制の整備・拡充……………三四

三 学生生活……………三五

第三節 東山時代……………三六〇

一 学部移転と学部改革構想の展開……………三六〇

二 学部改革の発展と教育・研究体制の安定……………三七三

第四節 現状と将来……………二八九

一 教育・研究組織の拡充……………二八九

二 教育・研究……………二九三

三 大学入試と学生生活 三〇〇

四 教育学部の現状と将来 三〇三

第五節 附属中学校・高等学校 三〇九

一 豊川時代 三〇九

二 芳野町時代 三二四

三 東山時代(I) 三三九

四 東山時代(II) 三五五

第五章 法学部

第一節 創立期 三三一

第二節 新しい法学部 三三九

一 法学部の独立 三三九

二 新制への移行 三四五

三 『法政論集』の創刊と図書増加 三四九

四 学生の自主活動と同窓会の正式発足 三五二

第三節 新段階に入った法学部	三五一
一 東山移転と新しい法学部のなやみ	三五一
二 法学部教育の再検討へ	三六一
第四節 紛争と改革	三六八
一 大学紛争と法学部	三六八
二 法学部の改革	三七三
第五節 一九八〇年代の法学部	三七七
一 学部教育改革と大講座制への移行	三七七
二 社会人と帰国子女の特別選抜学生	三八三
三 入試制度の改革	三八五
四 大学院問題の検討	三六七
五 瀧川文庫	三九〇
六 残された諸問題	三九〇
第六節 法学部の将来	三九四

第六章 経済学部

第一節 名古屋高等商業学校……………四〇九

一 学校と校風の誕生……………四〇九

二 研究活動の礎石……………四一六

三 行 幸……………四一三

四 「国体明徴」と日本文化講義……………四一四

五 苦悩の名高商から名経専へ……………四一八

六 戦後の摸索……………四三二

七 沈む西陽と転生……………四三六

第二節 経済学部の歩み……………四四八

一 概 説……………四四八

二 学部創設期……………四四九

三 東山校舎移転……………四五五

四 大学紛争と学部改革……………四五九

五 新たな学部像を求めて……………四六七

目 次

第三節 施設・組織・運営	四七六
一 施設	四七六
二 講座	四八〇
三 図書室の施設	四八三
四 経済構造研究センター	四八八
五 事務組織	四九六
六 予算	四九七
第四節 学部教育と学生	五〇〇
一 教官	五〇〇
二 カリキュラム	五〇〇
三 学生	五〇五
四 学部生活	五〇八
五 同窓会	五三三
第五節 大学院と研究活動	五三六
一 大学院	五三六
二 研究活動	五三六

第七章 理学部

第一節 名古屋大学理学部の沿革…………… 五二

一 名古屋帝国大学の設置と理工学部創設……………	五二
二 理学部の創設……………	五二
三 疎開・戦災そして再建……………	五四
四 学科増と研究施設の新設など……………	五四
五 建物……………	五五
六 出版物……………	五六
七 各種委員会……………	五六

第二節 理学部各学科・研究施設小史…………… 五〇

一 名古屋大学理学部数学教室小史……………	五〇
二 物理学科……………	五七
三 化学科……………	五七
四 生物学科……………	五七
五 地球科学科……………	六一〇
六 分子生物学科……………	六一九

第八章 医学部

七	菅島臨海実験所	六二六
八	宇宙線望遠鏡研究施設	六三三
九	地震予知研究の観測所	六三七
一〇	淡水魚類系統保存実験施設	六四四

第一節 医学部・附属病院および分院略史

一	医学部	六五七
二	附属病院	六六八
三	附属病院分院	六六七
四	医学部紛争	六九二

第二節 講座史・部門史・部史

一	解剖学講座前史	七〇七
二	解剖学第一講座	七一〇
三	解剖学第二講座	七二三
四	解剖学第三講座	七二四

五	生理学講座前史	七七
六	生理学第一講座	七九
七	生理学第二講座	七三
八	生化学講座前史	七七
九	生化学第一講座	七九
一〇	生化学第二講座	七三
一一	薬理学講座	七三
一二	病理学講座前史	七七
一三	病理学第一講座	七六
一四	病理学第二講座	七三
一五	細菌学講座	七四
一六	医動物学講座	七五
一七	法医学講座	七五
一八	衛生学講座	七五
一九	公衆衛生学講座	七四
二〇	予防医学講座	七一
二一	免疫学講座	七七
二二	内科学第一講座	七九
二三	内科学第二講座	七五

二四	内科学第三講座	七六八
二五	外科学第一講座	七九一
二六	外科学第二講座	七九六
二七	整形外科科学講座	七九九
二八	産婦人科学講座	八〇五
二九	眼科学講座	八二三
三〇	精神医学講座	八二六
三一	小兒科学講座	八三〇
三二	皮膚科学講座	八三六
三三	泌尿器科学講座	八三〇
三四	耳鼻咽喉科学講座	八三三
三五	放射線医学講座	八三六
三六	麻醉学講座	八四〇
三七	口腔外科学講座	八四三
三八	脳神経外科学講座	八四八
三九	老年科学講座	八五一
四〇	胸部外科学講座	八五五
四一	臨床検査医学講座	八五八
四二	神経内科	八六〇

四三	形成外科	八六三
四四	附属病態制御研究施設・生体防御研究部門	八六五
四五	附属病態制御研究施設・ウイルス感染研究部門	八六八
四六	附属病態制御研究施設・がん細胞研究部門	八七〇
四七	附属病態制御研究施設・医真菌研究部門	八七三
四八	附属病態制御研究施設・分子病態研究部門	八七四
四九	アイソトープ総合センター分館	八七五
五〇	附属動物実験施設	八七六
五一	人体解剖教育研究施設	八八三
五二	附属病院・検査部	八八四
五三	附属病院・手術部	八八八
五四	附属病院・放射線部	八九二
五五	附属病院・カルテ部	八九四
五六	附属病院・材料部	八九九
五七	附属病院・輸血部	九〇三
五八	附属病院・病理部	九〇七
五九	附属病院・高気圧治療部	九一〇
六〇	附属病院・分娩部	九一四
六一	附属病院・理学療法部	九一六

六二	附属病院・救急部	一九九
六三	附属病院・医療社会事業部	一九〇
六四	附属病院・薬剤部	一九三
六五	附属病院・看護部	一九八
六六	附属病院・集中治療部	一九四
六七	附属病院分院各診療科	一九七
六八	学友会	一九三
第三節	医学部教育の変遷	九五二
一	昭和十四年から終戦まで	九五二
二	終戦から昭和四十二年まで	九五七
三	昭和四十三年から六十三年まで	九六五
第四節	附設学校	九七六
一	附設学校概要	九七六
二	看護学校	九七七
三	助産婦学校	九八〇
四	診療放射線技師学校	九八三
五	臨床検査技師学校	九八五
六	附設学校掛	九八八

